

令和二年高知県支部「秋の俳句大会」成績

事前募集句

大会賞

端居して父ぼそぼそと捕虜のこと  
高知市 橋本絹子  
底抜けの青空八月十五日  
高知市 大川房子  
古算盤鯉糶値をピシリ打つ  
四万十市 大林文鳥

秀逸

風の吹く方へ歩いて秋遍路  
四万十市 亀井雉子男  
牛の仔に胸を嗅がれる花野かな  
高知市 田中杏  
風鈴や年々高くなりし軒  
高知市 石坂陽太郎  
川施餓鬼水際までの砂熱し  
いの町 平井静江  
囃鮎跳ねる手応え全身に  
高知市 上総勇子

佳作

草くぐる水の早さよ糸とんぼ  
高知市 島村かりん  
老人になり切れなくて桃を食ぶ  
宿毛市 宮尾直美  
秋燕みれいな雨を残しけり  
高知市 田村乙女  
仏間まで鮎酢の匂ふ盆の家  
四万十市 弘田幸子  
夕蟬やははに口約束いくつ  
香南市 乾真紀子  
長梅雨や農具に遺る父の絵符  
佐川町 浜田博子  
直情の我が子諫める紫蘇の花  
須崎市 土居銀花  
白桃のあやふいおもさ手にのせる  
いの町 川添弘幸  
水中花力抜くこと許されず  
仁淀川町 小崎千恵  
蝉しぐれ遠し原爆パネル展  
鎌倉市 溝渕淑  
指つまみ父の爪切る残暑かな  
佐川町 市川千年  
迎合は最も嫌ひ茄子の花  
高知市 津田吾燈人  
にんにくを刻め鯉は俺が切る  
高知市 近藤勝  
九十二歳の朝を生きをり茗荷汁  
高知市 野田美佐子  
父の忌や空より零る桐の花  
仁淀川町 高橋房子

井上弘美特選

草くぐる水の早さよ糸とんぼ  
高知市 島村かりん  
風の吹く方へ歩いて秋遍路  
四万十市 亀井雉子男  
木のほとけ石のほとけや小鳥来る  
四万十市 亀井雉子男

当日句会句

大会賞

十五夜の鯨の海のふくれくる  
空といふ山羊に嫁来る秋日和  
六十億の一人を生きて地虫鳴く  
秀逸

四万十市 亀井雉子男  
高知市 西本郁子  
高知市 前川恵女

海青し風なほ青し新松子  
大土佐に清流二つ天高し  
長き夜のもの言ひたげな壺の口  
始まりは山の一滴水澄めり  
晩秋の風聴きにゆく沈下橋  
佳作

高知市 山本敏子  
香美市 岡崎桜雲  
香南市 乾真紀子  
高知市 宮尾祐幸  
高知市 植田紀子

早々と月をあげたる花野かな  
鳥渡る浜に汐木の道標  
嫁ぐ子の荷に語りかけ冬ぬくし  
青北風の空の色なり紙を漉く  
閉校の庭にひろげて豆筵  
それぞれの靴が落葉の歌を生む  
子の寝顔確めて消す秋燈  
飛び石のひとつぐらつく秋の暮  
次の世も句座のひとりに大花野  
みやこ人土佐に迎へし菊の酒  
図書館の椅子を斜めの秋日かな

高知市 島村かりん  
四万十市 大林文鳥  
高知市 山中明子  
高知市 松林朝蒼  
四万十市 藤原佳代子  
高知市 山本呆齋  
四万十市 中平由紀子  
高知市 荻田佐枝  
高知市 野田美佐子  
高知市 近藤勝  
高知市 田村乙女

井上弘美特選

冬近しはるかな音へ犬の耳  
大土佐に清流二つ天高し  
海青し風なほ青し新松子

香南市 乾真紀子  
香美市 岡崎桜雲  
高知市 山本敏子

